

「茅野市こども・家庭の豊かな未来づくり推進計画」(素案)に係る  
パブリックコメントにお寄せいただいたご意見と市の考え方について

「茅野市こども・家庭の豊かな未来づくり推進計画」(素案)に係るパブリックコメントを実施したところ、下記のとおり貴重なご意見をいただきました。

これらのご意見について、要約・集約し、それらに対する市の考え方をまとめましたので、公表いたします。

なお、計画と直接関係のないと考えられるご意見については、公表していません。

記

○パブリックコメントの実施状況

1 意見の募集期間	2 意見の提出者数と 件数		3 意見の提出方法別人数				
	提出者	件数	メール	郵送	FAX	持参	計
令和4年12月12日(月) ～令和5年1月11日(水)	11名	54件	9名			2名	11名

4 いただいたご意見とそれに対する市の考え方

番号	頁	項目	ご意見・ご質問の概要	市の考え方
1		全般	全国的な動向は、わかるが茅野市の状況が施策とどうつながるのかわかりにくい。調査した数字がどの施策とつながるのかよく見えない。	施策とのつながりを数値化により表現できていない箇所があります。いただいたご意見は今後の計画の検証を行う際に参考にさせていただきます。
2	たとえば…困っている家庭があるとして、応援したい人や企業があった場合に、どこに相談して、どのように繋がって、困っている家庭を応援できるのか、実際のロードマップがわかると良い。 災害時のボランティアセンターのように、ここに相談すれば、貧困問題について、市民や地域、企業ができることの道筋を教えてくれる、相談案内所？案内人みたいな人が誰なのかが明確にしてほしい。		いただいたご意見を参考に、各事業の実施主体にお尋ねいただければ、必要な支援に繋がるよう体制を整備してまいります。	
3	推進にあたっての本部、責任者がぼんやりとしている。		子どもの貧困対策の推進に関しましては、平成30年度に設置した「茅野市子ども・家庭の豊かな未来づくり推進本部」において取り組んでまいります。推進本部の設置要綱を計画書に記載いたします。	
4	このような計画を作る時は、出来る限り当事者やそれに直接関わる支援者の意見や問題を丁寧に聞き取り、実情に合わせた運用をお願いしたい。		計画策定に当たり、令和3年度市内小学校5年生中学校2年生の児童生徒とその保護者にアンケート調査を実施し、生活実態の調査を行いました。また、市内子ども食堂の関係者との懇談会、主任児童委員会、どんぐりネットワーク茅野幹事会、福祉21茅野幹事会を通じて利用者、支援者の状況把握に努めてまいりました。計画の推進に当たっても、当事者や支援者からのご意見をお聴きして計画を推進してまいります。	
5	個人情報等の問題もあるが、継続的な支援の為に、今一度“どんぐりカード”（子育てカルテ）の運用を考えてほしい。		「どんぐりカード」につきましては、第1次茅野市子ども・家庭応援会議で提案され導入に向けて検討をした経過があります。現在は「どんぐりカード」の導入と並行して検討した「どんぐり手帳」を配布させていただいております。運用につきましては、「どんぐり手帳活用推進委員会」において検討をさせていただき、出生届を提出されたご家庭に配布してまいりました。令和6年度からは、「どんぐり手帳」のうち「子育て支援情報」は従来どおりに配布、「成長記録」については、必要なご家庭に配布させていただくことになりました。	
6	茅野市の現状については分かったが、それについての対策や具体的な支援についてがよく分からなかった。		いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で今後の参考にさせていただきます。	
7	全体的に計画が分かりにくい。 とにかくもれなく救っていけるよう（本当に必要な人にサービスが届くよう）改善をつくしてほしい。		いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で今後の参考にさせていただきます。	
8	表紙	計画名称	貧困対策が目的の計画であるなら計画の名称は括弧内の方がメインではないのか。	本計画は子どもの貧困対策の推進に関する法律に規定された計画となりますが、計画の名称につきましては、関連団体との意見交換において「貧困」という文言を名称としない方が良いのではというご意見をいただき、推進本部会議において現名称に決定させていただきました。括弧書きの名称について削除させていただきました。
9			計画の名称が2つあるのは何故か？ 貧困対策であればカッコ内の「茅野市子どもの貧困対策推進計画」で良いのではないか？ 内容が伝わる分かりやすい名称にしてほしい。	
10	1	計画策定の背景	子どもの貧困対策における最大の対策は、大人の世代の雇用安定、賃上げを改善すること。そうすれば「子どもの貧困」を改善する最大の条件が揃う。このことを意識して、市政を展開してほしい。	いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で参考にさせていただきます。
11	3	計画の期間と対象	計画期間の5年と決めてはいるが、その時の社会情勢などによって柔軟な対応をはかると謳っているところが良い。→子供の成長は早く、一年一年が大変重要。	賛同のご意見として承りました。

4 いただいたご意見とそれに対する市の考え方

番号	頁	項目	ご意見・ご質問の概要	市の考え方
12	5	子どもの貧困の捉え方	子どもの健やかな成長環境が損なわれることは人間力の低下につながる。長く放置してしまうと負の連鎖の中で地域力の衰退が避けられなくなる。という危機感を伝えてもいいのではないか。親の経済力が子どもの貧困にダイレクトに結びついているわけではないこともある。	いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で参考にさせていただきます。計画書は原文のままさせていただきます。
13	6～29	茅野市の子どもと家庭の状況	茅野市の貧困の現状について、調査しまとめているが、第3章以降の課題、計画、施策に対応しておらず分かりづらい。データに基づく計画、施策の根拠をデータで示してほしい。	計画には統計データ、調査の結果と直接結びつく施策を載せております。施策につきましては、行政評価を行う中で成果指標を設定し、達成状況等の評価をしてまいります。
14	10	茅野市の子どもと家庭の状況 (10) 高等学校卒業後の状況の推移	茅野市で暮らす高校生なのか、茅野市にある高校の生徒の状況なのか記載がないので 公立か私立かでも数字が変わってくるのでは。	(9) 中学校卒業後の状況の推移につきましては、市内中学校の状況、(10) 高等学校卒業後の状況の推移につきましては、市内の高等学校の状況となります。「市内」を追記します。
15	11～23	子どもの生活状況調査からみえる子どもと家庭の状況	アンケート結果が第3章の課題内容のどこに結び付くかわからないので、整理し説明してほしい。	いただいたご意見につきましては、今後の検証や計画の見直しの際に参考にさせていただきます。
16	27	子どもの生活に関する課題	生活困窮の世帯は親子の関係性が薄いだけでなく地域とのかかわりも薄い。生活習慣を定着させるための取り組みは行政と地域が連携し進める必要があると考える。そこを盛り込むことも検討してほしい。	いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で参考にさせていただきます。
17	27、36	1 子どもの生活に関する課題 No.18 親支援推進事業	「子どもが安心して過ごせる居場所の確保」の居場所はどこを想定して書かれているのか？ 親子共に社会的に孤立させないためにも、民間の居場所や子ども食堂など、親子の安心できる居場所や食の提供、家族以外の大人と接する中での基本的な生活習慣の獲得を盛り込んでほしい。	子どもの居場所として設置しているこども館（0123広場、CHUKOらんどチノチノ）、地区こども館、学童クラブなどを想定しております。また、子ども食堂やその他の民間の居場所とも連携し、子どもが安心して過ごせる居場所を確保してまいります。 新規事業の事業内容に「親子ともに社会的に孤立させないために」等の文言を追加させていただきます。
18	28	基本理念	「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右され、経済的困難な状況が世代を超えて連鎖することがないよう、教育の機会均等や必要な環境整備を図り、全ての子どもがその将来に夢や希望を持って成長していける社会の実現を目指す」の方が適している。こちらの方が、この推進計画が貧困対策を念頭に置いていることを良く表している。	ご意見の趣旨を踏まえ、修正させていただきます。
19			基本理念の前文の後半に書かれている「・・・社会の実現を目指す」をこの前文にも持ってくる方が良い。貧困対策は、こどもの未来を応援するための施策だけでなく、現在進行中の困窮状況へのセーフティネット的な支援の性格が強いと思う。	
20			計画のタイトル、前半にある大量のデータから考えるに、この計画は「貧困対策推進」のための計画ではないか？なぜ、一番大事な「基本理念」が少子化対策なのか？また、「全ての市民」に子育てを求めている点、わざわざ「少年」と「少女」を分けて表記する点など、近年の人権感覚から不適切な表現ではないか？	

4 いただいたご意見とそれに対する市の考え方

番号	頁	項目	ご意見・ご質問の概要	市の考え方
21	28	基本理念	四角の中の基本理念がどう貧困対策とつながっているのかわかりにくい。先の文章の中にある「経済的困難な状況が世代を超えて連鎖することがないよう・・・すべての子どもがその将来に夢や希望をもって成長していける社会の実現」を理念にしたほうが伝わりやすいのではないかと。また、「すべての市民が…子どもを産み…」の文言は、子どもができていく方たちのいる中ではとても使い方が難しい言葉だと思う。誤解されてとられてしまうのでは。	ご意見の趣旨を踏まえ、修正させていただきます。
22			基本理念からの抜出箇所がおかしいのでは。貧困対策というのであれば「子どもの将来がその生まれ育った環境に左右され、経済的困難な状況が世代を超えて連鎖することがないよう～夢や希望を持って成長していけるまち」ではないか？	
23	29	基本方針1, 2	基本理念の前文で述べられている目指すことを鑑みると、基本方針1, 2の前に、教育等の機会の創出（強化、充実）に関する基本方針を述べた方が良いと思う。実際にP34以降の事業内容には、居場所づくりや放課後教室、交流事業への補助などが挙げられており、これらは機会創出事業の強化、拡充といえる。現状の基本方針1, 2は、そうした教育の機会を逸している者に対する相談と経済支援の事業のことを指しており、機会そのものの強化、拡充について言及していない。これは方針の見落としと思える。	教育等の機会の創出につきましては、基本方針2「子どもとその家庭への支援」に包含し、必要な施策を推進してまいります。いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で参考にさせていただきます。
24	29	2 基本方針	官民が垣根を超え、協働で動いていくことで子どもの貧困に対するサポートがスピード感をもって遂行出来ると考えている。地域全体で気づいていこうというのはいいと思う。	賛同のご意見として承りました。
25	31	相談支援体制の充実の具体的施策	『「育ちあいちの」、「まいさぼ茅野市」を核とした』とあるが、前述の「気づき（発見）」の部分の充実には、該当者との多様な接点が有効と思われる。既に民間の活動にある、フリースクール、こども食堂のような団体との情報共有も情報キャッチの方法として検討した方がよい。また、相談対応も該当者と対応者との相性もあるため、多様な対応体制が必要と思われる。「核とする」ことが対応体制の集約を意味するならば、それは好ましいとは思えない。連絡体制の強化を進める他方で、対応体制の多様化も考えた方が、多くの人を救えることにつながると思う。	P30, 31は行政側の施策の体系、行政側の相談・支援体制の充実として子育て世帯包括支援センター、育ちあいちの、まいさぼちのを核とし、民間の団体で受けた相談についても情報共有し、役割分担をして支援していくことを考えております。
26	31	施策の体系 具体的施策	前述までの中で地域とつながると謳っているが、相談支援体制の中で子育て支援団体はどう連携をとれるのかが読み取りにくい。	
27	32	(1) 相談・支援体制の充実 「・・・気づき、支えていく支援体制の充実を図る・・・」	「早期に気づき、適切な支援につなげていくことが必要」と説明文では述べているが、現状の計画では、発見後の対応策の拡充にポイントが置かれているように思える。(2)の関係機関へのつなぎの強化も、発見後の対応になっている。文頭で述べている「早期の気づき」の充実を図る計画も必要であると思う。	ご意見の趣旨を踏まえ、基本方針1「相談・支援体制の充実とつなぎの強化」に「基本施策(1)「キャッチアップ、気づきの強化」を追加し、発見体制の強化に繋がります。
28	33	「相談支援体制」について	非常に多岐に渡る部署、分野、組織、団体（民間を含む）との連携が不可欠な計画であることが伝わるが、その多岐に渡る情報を一元管理し、全体を見渡す司令塔は、結局、この図のどの組織になるのか？また、図の中に出てくる「連携」とは、具体的に何をすることなのか？	図は計画の進行管理を含めた全体像を図示したものではなく、支援相談体制について図示したものになります。全体を見渡す司令塔としては「茅野市子ども・家庭の豊かな未来づくり推進本部」となります。連携については、それぞれのケースに必要な支援をしていくことをイメージしています。

4 いただいたご意見とそれに対する市の考え方

番号	頁	項目	ご意見・ご質問の概要	市の考え方
29	33	相談・支援体制の充実と関係機関へのつなぎの強化	図中にいくつかの双方向の矢印があるが、イメージとしてだけでなく、矢印が一方向にならないように実際に情報が共有されるようにしてほしい。	いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で参考にさせていただきます。
30	33	図	相談支援体制の中で子育て支援団体はどう連携をとれるのかが読み取りにくい。「茅野市こども・家庭の豊かな未来づくり推進本部」「茅野市こども・家庭応援計画（どんぐりプラン）推進ネットワーク」「子ども応援部会」は図の中のどこに位置するのか？	子育て支援団体から「育ちあいちの」に情報をお寄せいただいたり、「育ちあいちの」の相談員が出向いて相談を受けるなどの連携を想定しています。図は相談支援体制をイメージしたもので、計画の推進体制を表現したものではありません。
31	33		具体的な名称や機関名など書き方がバラバラで分かりにくい。子育て支援団体は子ども食堂だけなのか？ 地域にどのような団体があるか把握されているのか？ また、この図はつなぎの強化を表していると同時に事業の全体像にもなっていると思われるが、この計画自体の責任所在はどこなのか？誰が責任を持ち、どのように情報や計画の推進を把握し、評価検証を行うのか明記してほしい。	子育て支援団体 子ども食堂、どんぐりNW茅野幹事に属している団体、どんぐり通信（サークル通信）に掲載していただいている団体については把握しております。それ以外の団体につきましても今後把握、連携に努めてまいります。計画自体の責任は市に設置した「茅野市こども・家庭の豊かな未来づくり推進本部」（本部長 市長、構成員 全部課局、事務局 こども課）となります。推進本部設置要綱を記載いたします。計画の推進の把握、評価検証につきましては、「第6章計画の推進に向けて」に掲載しております。
32	34	子どもとその家庭への支援	「地域全体で家庭を支える」これからの時代に即しており必要だと考える。【主な取り組み・事業】の各項目に地域と連携するイメージがしやすい文言を盛り込んでもらうとわかりやすい。	地域との連携を必要とする事業については表記しているため、原文のままとさせていただきます。いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上での参考にさせていただきます。
33	34	No.1 子どもの居場所づくり推進事業	子どもの居場所づくり推進事業の拡充の部分で、現在やっている懇談では相談体制よりも食の提供の報告に重きが置かれています。相談体制を持たない団体も入っており、現状の懇談会で相談体制の充実を図るとするのは無理があると感じます。相談にあたる人を増やす研修を行うとか、相談に特化した懇談を行うなどが必要だと考えます。	これまで開催した懇談会において、相談体制については「育ちあいちの」に繋げていただき、「育ちあいちの」の職員が子ども食堂に出向いて相談できることをお伝えしております。いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で今後の参考にさせていただきます。
34	34	No.2 放課後子供教室の実施に向けた検討	この事業は「新規」ということになっているが、地区子ども館及び学童クラブでの実施であればこれは「拡充」ということになると思う。しかし、今までの検討結果から放課後子供教室の事業を地区子ども館で実施することは難しいとされている。 よってここでの検討内容としては「放課後子供教室をどの様に実施していくかの検討」程度までしか記載出来ない様な気がする。	子どもたちに多様な体験機会を提供する場として、放課後子供教室の実施は子どもの貧困対策に有用な施策と考えております。しかし、実施するためには、関わっていただく方々と連携を図る必要があり、実施に向けて検討を行う必要があるため、このような記載とさせていただきます。いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で、参考にさせていただきます。
35			事業内容の中に「地区子ども館及び学童クラブ」とありますが、各地区子ども館には子ども館運営委員会がある。そこでの話がない中で、実施に向けた検討という事に違和感を覚える。地区子ども館運営委員会の位置づけも曖昧、コミュニケーションスクールや子育て部会など、地域にある様々な組織と協議して進めてほしい。 子どもにとっての「様々な体験」とイベントは違うと思います。同じような地域の人たちが支える組織は、形をつくって集めるものになると存続が難しくなる。放課後子供教室に関わる大人は、指導員という位置づけになるが、今、地区子ども館に関わる大人は指導員として活動していない。また、現在他市町村で行われている放課後子供教室もスタッフの確保に苦慮していると聞いている。この施策はやるのが前提のようだが、とにかく、地域の人たちと協議しながら進めてほしい。	
36			「放課後子供教室の実施に向けた検討」となっているが検討するまでの計画であるならここに載せる必要があるのか。実施しなければ、貧困対策にはならないのでは？	

4 いただいたご意見とそれに対する市の考え方

番号	頁	項目	ご意見・ご質問の概要	市の考え方
37	34	No.7 心の教育事業	心の教育事業にも民間の団体との連携を入れたらどうか。発達障害、不登校のお子さんやご家族は学校や行政だけで対応できるものではないのでは。	いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で参考にさせていただきます。
38			「心の教育事業」にいじめの問題解決も入れてはどうか。いじめられる子供よりいじめめる子どもの心のケアが重要だと言われている。早期発見につなげるには学校。その他教育機関と家庭や地域の連携も必要になってくると思う。	
39	35	No.9 小中一貫教育推進事業	書いてある内容は重要なことだと思うが、この事業内容が、どのように貧困対策になるのか。	ご意見の趣旨を踏まえ、本計画からは削除させていただきます。
40	35	No.13 コミュニティスクール促進事業	茅野市のコミュニティスクールは文科省型、信州型、茅野型のどれにあたるのか。事業内容の末尾にある「支援」を行うと、今までの「茅野市型コミュニティスクール」と比べて、どう位置付けや、規模、会議の回数、責務などが変化し、貧困対策に有効になることを想定しているのか。	ご意見の趣旨を踏まえ、本計画からは削除させていただきます。
41	36	No.19 ながの子育て家庭優待パスポート事業	「地域資源を活用する」ような文言が入ると一般市民が関わりやすく感じるのでは。	ご意見の趣旨を踏まえ、事業内容を修正させていただきます。
42	37	No.18 親支援推進事業	事業内容見直しという事で前の事業内容はよくわからないが、もし訪問型にするのであれば明記した方がいいのでは。「食事を一緒に作ったり…」という例があげられているが、まずは「孤立」させない事だと思う。「生活できるように自立を促す」のではなく「孤立させないことが自立につながる」と思う。活動している人たちは多くいるのでそこの連携をとって支援になればいいのでは。	前の事業内容については追記させていただきます。子どもの貧困対策を推進する上で、子どもとその家庭を「孤立させない」ようにすることは最も大切な支援であると考えます。しかし、止むを得ず孤立してしまう状況に陥ることもあることから、本事業においては「自立を促す」ことを主眼においた事業としたいと考えております。なお、本事業への参加を通じて「孤立させない」支援に繋げてまいります。いただいたご意見につきましては、子どもの貧困対策を推進する上で参考にさせていただきます。
43	37	No.28 こころの相談事業	うつ以外での心の病などもある。自殺予防だけに限定せずにおいた方がよいのでは？	ご意見の趣旨を踏まえ、事業内容を修正させていただきます。
44	40	計画の推進体制「推進本部」	「推進本部」について誰が担うのかなどの説明が無い。さらに推進本部の幹事会議とはどのようなものか分かると良い。	第7章資料編に茅野市子ども・家庭の豊かな未来づくり推進本部の設置要綱を記載いたします。
45	40	計画の推進にあたって	現状では、市役所内の関係部局間での協議のみになっているようである。また本計画の文面からは、全体的に具体的な実施内容が想像しにくい。これから詳細を詰めていくのだと思われる。本計画について、市民への周知のみならず、高い実効性を持つ施策の展開ができるように、これらの実情に詳しい民間、適切な対応に関する専門家らをメンバーにして詳細計画を検討する体制を設けた方が良い。そうした会議体（専門委員会）を設ける施策も盛り込んだ方が良い。	計画策定に当たりましては、茅野市子ども・家庭応援会議を中心に、茅野市の21世紀の福祉を創る会、子ども食堂関係団体、主任児童委員会等からご意見をお聴きしながら策定してまいりました。新たな会議体（専門委員会）につきましては、計画を推進していく中で、設置の必要性について茅野市子ども・家庭の豊かな未来づくり推進本部会議、茅野市子ども・家庭応援会議で検討してまいります。なお、必要に応じて幅広い見識を有した専門家からの助言を聴取いたします。
46			推進計画を周知するとともに、市民の声を身近に吸い上げる場所があることを周知してほしい。	いただいたご意見を参考にさせていただき、今後の子どもの貧困対策の周知に努めてまいります。

4 いただいたご意見とそれに対する市の考え方

番号	頁	項目	ご意見・ご質問の概要	市の考え方
47	40	計画の推進体制	説明文中で、関係支援団体等の協力が不可欠と述べている。まさにその通りであると思うが、この計画の立案段階では、それらが十分でなかったように思える。推進の途中で見直しや軌道修正するよりも、実施の当初の推進に関する詳細で具体的な実施計画を立てる段階から民間や専門家と協働する方が良い。	いただいたご意見につきましては、今後の計画を見直し等の際の参考にさせていただきます。
48			「支援団体、地域住民の協力が不可欠」、「地域の支援者との連携を強化・充実していきます」とある、茅野市は今までも、同様の発言をしており。その方向性には賛成する。そこで、「今までの連携」では何が足りなくて、具体的に何を、どう変えることで、さらに「強化・充実」させていくのか、できるだけ具体的に提示してほしい。	ここでは、今までのことの検証ではなく本計画の推進に向けての推進体制について説明していますので、原文のままとさせていただきます。
49			「茅野市子ども・家庭応援会議」が検証を行う際には、有識者「等」とあいまいにせず、実際に「貧困対策にあたる現場の声」や「専門家の声」、また、実際に「支援を受ける側の声」を十分に反映することが望ましいと考えるが、追加する必要はないか。	いただいたご意見につきましては、今後の計画の進行管理、見直し等の際に参考にさせていただきます。なお、必要に応じて幅広い見識を有した専門家からの助言を聴取いたします。
50			市民に対し情報提供するだけでなく、市民および市民団体からの情報の収集、共有してもらいたい。	いただいたご意見を参考にさせていただき、子どもの貧困対策に関わる団体等からの情報収集、共有に努めてまいります。
51			市民に対して積極的に連携をはかり、施策の展開および軌道修正も柔軟に行うという時世に合わせた子育てこそまさに今必要とされている部分だと感じる。推進本部のメンバーがどのように選定するのか？	推進本部の本部員は各部等の長とされており。推進本部の設置要綱を記載させていただきます。
52			行政、各種団体、地域の支援者との連携強化・充実と書かれている情報提供の場はどこか？「茅野市子ども・家庭応援会議」ということか？関係する各種団体、地域の支援者が計画の推進、検証の場に参加できることを計画には明記してほしい。	情報共有、情報提供の場として、行政は、推進本部会議、要保護児童対策地域協議会等の会議、各種団体、地域の支援者は「茅野市子ども・家庭応援会議」や子ども食堂懇談会を想定しております。その他関係団体の参加につきましては、今後検討してまいります。計画書は原文どおりとさせていただきます。